

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1278300098
法人名	社会福祉法人 柚子の会
事業所名	グループホームリブ丸山
所在地	千葉県南房総市川谷302-8 (電話) 0470-46-2171

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成21年2月25日	評価確定日	平成21年4月13日

【情報提供票より】平成21年2月10日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	9人, 非常勤 6人, 常勤換算 14人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建て	1階	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有( 円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○ 有( 200,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	0 円
または1日当たり 円				

### (4) 利用者の概要(2月10日 現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.5 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	青木産婦人科医院 安房地域医療センター
---------	---------------------

株式会社 日本ビジネスシステム

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

豊かな自然な環境に囲まれた環境の中、「グループホームリブ丸山」がある。隣施設には、特別養護老人ホームがあり、看護師・栄養士による指導・助言、リフト浴槽の利用、合同行事の実施等、様々な連携を行い、柔軟な支援が行われている。施設の窓からは、緑が広がり、四季折々の景色を楽しむ事ができる。また、入居者と職員が共同で飾り付けを制作し、季節感をより楽しめるよう取り組みがなされている。入居者の希望や生活ペースを重視した支援を行っており、入居者が思い思いの時間を過ごしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価にて主な指摘事項は無かったが、評価を通じて得た気付きや反省点を職員全員で話し合い、改善し、サービスの質の向上に努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の作成においては、職員全員が意見を出し、管理者がまとめ、作成している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	地域包括支援センター職員、民生委員、地域区長、入居者、家族、施設職員を構成員として、運営推進会議を開催している。会議では、活動報告や意見交換を行い、施設理解の促進やサービスの質の向上に役立てている。会議に参加しやすいよう、行事と一緒に開催する等の工夫も行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情・相談窓口を設置していると共に、家族の面会時や電話にて意見・要望等の確認を行っている。挙がった意見においては、会議にて話し合いを行ない適切な改善に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩や外出の時に近隣住民に挨拶を交わす関係作りがなされていると共に、ご好意でおすそ分けを頂く事もある。小学校の運動会見学等、地域行事への参加にも努めている。運営推進会議を活用し、地域との情報交換や施設理解の促進を行っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の作成した「精神的な豊かさ、満足度を基礎とした、尊厳と自立の確立」と銘打った理念を掲げ、日々のサービスの取り組みへ活かしている。また、事業所独自の年度目標を掲げ、地域に根ざしたサービス提供及びサービスの質の向上に努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲示していると共に、会議にて理念に基づいたサービスの提供について話し合いを行ない、職員全員が理念を意識したサービスの提供に努めている。また、運営推進会議にて、施設の理念・方針の説明を行ない、地域や家族への周知も行なっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や外出の時に近隣住民に挨拶を交わす関係作りがなされていると共に、ご好意でおすそ分けを頂く事もある。小学校の運動会見学等、地域行事への参加にも努めている。運営推進会議を活用し、地域との情報交換や施設理解の促進を行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価にて、主な指摘事項は挙がらなかったが、外部評価にて得た気付きや反省点を会議にて話し合い、サービスの質の向上に取り組んでいる。自己評価の作成においては、職員全員が意見を出し、管理者がまとめ、作成している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員、民生委員、地域区長、入居者、家族、施設職員を構成員として、運営推進会議を開催している。会議では、活動報告や意見交換を行い、施設理解の促進やサービスの質の向上に役立てている。会議に参加しやすいよう、行事と一緒に開催する等の工夫も行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常業務全般の報告・連絡・相談を随時行ない、連携を図っている。また、研修案内等の情報提供を受ける等、市の協力を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に生活状況や金銭管理等の報告を行なっていると共に、年3回発行の季刊誌、写真、手紙にて詳しく入居者の様子を報告している。また、生活状況に変化があった場合や必要時には随時電話にて連絡をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を設置していると共に、家族の面会時や電話にて意見・要望等の確認を行なっている。挙げた意見においては、会議にて話し合いを行ない適切な改善に努めている。		挙げた意見・要望に対して、家族に十分な説明を行い、納得・了承を得る事で、家族が安心できるサービスの提供や良好な関係作りができるよう、対応の見直しを期待します。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1年間で常勤職員の異動は最小限に抑えられており、人材は安定している。入職があった場合には、管理者と一緒に業務を行い、入居者とコミュニケーションが取れるよう配慮し、馴染みの関係ができるよう努めている。管理者は職員に対し、個別に相談に乗る事で、業務上のストレスの軽減に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修においては、必要に応じて参加している。事業計画にて研修計画を立て、運営法人にて研修が開催されている。また、施設内でも緊急時対応研修やヒヤリハット対策会等を開催している。資格取得予定の職員には、アドバイス・情報提供・研修参加を勧める等、職員のスキルアップを支援している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営法人での連携を活かし、相談や情報交換を行い、系列の施設の職員と交流を図っている。また、鴨川市の病院の認知症センターを中心として行われている集いの会に参加しており、館山市・鴨川市・南房総市の同業者との交流を図っている。集いの会では講演会・意見交換・困難事例の検討会等が行われており、相互の質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>随時見学を実施しており、施設の雰囲気や方針を理解してからの入居に努めている。サービス利用までは、訪問をできるだけ多く行ない、自宅や他の施設での様子を伺って情報を集め、本人の生活ペースや能力に合わせた支援が行えるよう努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人の能力や希望に応じて家事等の生活活動を共同で行っている。職員は入居者に人の繋がりや地域の習慣・歴史等を学び、共に支え合う関係を築いている。また、入居者の趣味や特技を活かし、唄や踊り等のレクリエーションを先導してもらっている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>面談にて、本人・家族から生活暦や意向を聴取し、記録している。訪問を数多く行ない、自宅での生活状況や他の施設の利用状況を直接確認し、情報を集めている。入居後は、日常生活の観察を記録し、意向や気付きを職員全員が共有している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画においては、本人・家族の意向を考慮した上で、会議にて話し合いを行い、計画作成担当者が作成している。計画作成後は、家族に説明をし、了承を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月に1回、目標の達成状況の確認や評価を行い、必要に応じて見直しを行なっている。また、生活状況に変化があった場合には、随時見直しを行なっている。見直しにおいては、日々の生活状況の記録をもとに、会議にて話し合いを行ない、計画作成担当者が介護計画を作成している。計画作成後は、家族に説明をし、了承を得ている</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別の要望に応じて買い物や馴染みの場所等へ外出を支援している。定期的に訪問理美容を行っており、整容の支援を行なっている。併設の特別養護老人ホームとの連携を行っており、合同行事・看護師や栄養士からの助言・リフト浴槽利用による入浴支援等入居者の希望や身体状況に応じた柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外にも希望の掛かり付け医への受診が可能となっている。また、希望に応じて職員による通院の付き添いも支援している。併設の特別養護老人ホームの看護師・栄養士との相談等、連携が図られており、適切な健康管理が行なわれている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する施設の方針を明文化しており、家族の意向を確認していると共に、同意を得ている。重度化した場合には、意思確認書をもとに、医師・家族と相談しながら施設として出来る限りの対応ができるよう体制を整えている。今後は、医療連携体制加算を取り入れ、より手厚い医療体制の構築を検討中である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人書類においては、事務所にて保管し、個人情報の保護に努めている。入居者の意思を尊重した支援を行なっていると共に、声掛けや言葉遣いに注意し、入居者のプライバシーを損ねないよう努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールは設定されておらず、本人のペースや希望に合わせた生活を送ってもらっている。食事の時間や場所等は、入居者が自由に選択できるようになっている。希望が言い出せない入居者においては、日々の観察等から、本人本位に検討した上で、サービスを提供している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片付けは入居者と共同で行っている。入居者と職員が共同で献立を作成していると共に、買い物をしている。行事の時には、ケーキ等の特別食の提供や外食をしており、食に対する楽しみを支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施しており、入居者の希望に応じて回数等、柔軟に支援している。また、体調や状況に応じて清拭や足浴を実施し、入居者の清潔保持に努めている。隣設の特別養護老人ホームのリフト浴槽の使用が可能となっており、身体能力に合わせた入浴支援が行われている。脱衣所にはエアコンを設置し、快適な入浴を支援している。入浴拒否をする入居者には、無理強いせず、声掛けやタイミングを工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の希望や能力に応じて家事等の生活活動を共同で行っている。ゴミ出し等、係りを決めて役割を持った生活を支援している。決まったレクリエーションを行わず、本人の希望や生活ペースに合わせて、各人が思い思いの生活を送っている。入居者は窓から見える季節感ある景色を眺めたり、テレビや音楽等の鑑賞を楽しみながら、ゆったりとした時間を過ごしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて散歩や買い物等を実施している。ベランダへの出入りは自由となっており、天気の良い日はお茶飲みや日なたぼっこができるようになっている。		外出が困難な入居者に対しての戸外での楽しみの提供ができるような取り組みを期待します。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	センサーチャイムやドアベルを活用しながら、日中は状況に応じて開錠し、入居者の自由な生活を支援している。また、外に出た入居者に対しては、声掛け等の適切な対応により自由を束縛しないよう努めている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いのもと、年2回消防訓練が併設の特別養護老人ホームと合同で実施されている。また、運営推進会議にて協力の呼びかけを行い、協力体制の構築に努めている。今後は、職員に救急救命講習の受講を進め、緊急時の対策を講じる予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の特別養護老人ホームの栄養士の協力のもと栄養バランスのとれた食事提供がなされている。食事の摂取量及び必要に応じて水分摂取量が記録管理されている。摂取量が不足している場合には、個別に記録を行い、経過を観察しながら適切な対応を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全面バリアフリーで、手すりの設置等も適切になされていると共に、階段に目印をかねた滑り止めが張られ、安全面での配慮がなされている。玄関は南向きで日当たりが良く、ソファが配置されており、ゆっくりくつろげる空間になっている。廊下には入居者の作品等が飾られ、四季を感じられるよう工夫されている。また、入居者の好みを考えた絵や写真等を掲示している。		入居者の安全を考慮し、洗剤や掃除道具等の配置の見直しを行う事を望みます。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望により自由に馴染みのものを持ち込むことが可能であり、居心地よく生活が出来るように配慮されている。床はフローリングになっているが、希望によりじゅうたんや畳を敷くことも可能である。居室の扉に暖簾等の目印を設け、自分の部屋がわかりやすいよう工夫している。全居室にエアコンが設置しており、適切な空調管理が行なわれている。		